



根堀台だより

平成30年3月20日

第109号

校訓「進歩(文)」「健康(武)」「協力(道)」

平成29年度修了式 明日につながる出発を



3月20日(火)は「平成29年度修了式」、「1年間の総まとめ」の日、そして今年度最後の登校日となりました。1年生は202日、2年生は203日登校したことになります。この200日を超える積み重ねがしっかりと一人一人の学力と成長につながってくれることを心から願っています。今日お渡しした成績通知表には職印を押した「修了証」が入っていますが、これをもって全員の進級を認めたこととなります。2年生は最上級生として、1年生は中堅学年として4月から学校生活を送ることとなります。自分自身の中に、もし今進級に当たって「まだ足りない部分」があったら、それをどうしていくべきかしっかりと考え、行動してみてください。

今年も沢山のことがありました。特に文部科学省指定「外国語教育強化地域拠点事業」最終年度を迎え、10月に公開研究会を行いました。1年生は沢山の先生方の前でも臆することなくしっかりと頑張ることができました。この英語の取組を他教科の学習にも生かして欲しいものです。2年生は多くのトラブルの乗り越えながら、全員で修学旅行を成功させることができました。支えてくれる沢山の皆さんの気持ちをしっかりと受け止め、さらなる成長へと結び付けて下さい。

4月は「新しい由利中への出発」となります。どんな「なりたい自分」を目指すのかしっかりと目標をもち、実現するために自分は「どんな生き方」をするのかしっかりと考え、どんな困難に会おうとも「夢あきらめない」で進んでほしいと願っています。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、この1年間子どもたちの夢の実現に向けた物心両面でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げますと共に、今後とも由利中学校への変わらぬお力添えをよろしくお願い致します。

平成29年度 修了式式辞

今日は修了式。各々の学年の卒業式とも言えます。

由利中学校は「夢あきらめない」学校です。皆さんも「なりたい自分」という夢や目標をもって、時には迷いながら、悩みながら、この1年を過ごしてきたのではないのでしょうか。明日から始まる「春休み」には、この1年の自分自身をふり返り、自分自身を見つめ直して下さい。

例えば「テスト」です。1年生は中学に入学し、「定期テスト」の点数や順位が回を重ねる度に気にならなかったでしょうか。2年生はこれから高校入試に向けて「志望校」と「実力テスト」の結果にきっと一喜一憂することでしょう。現実をまずしっかり捉えてみることです。自分が他人と比べてできていたと感じる人には楽しいことかもしれません。逆に、自分がどれほどできていなかったか、なぜ、他の人が自分よりできるように見えるのか、そう感じた人は自信を無くし、「自己嫌悪」に陥ってしまうかもしれません。中には「どうせ自分なんか」とあきらめたり、厳しい現実から目を背ける人が出てくるかもしれません。

大切なことは他の人と自分のテスト結果を比較することではなく「これから自分はどうするのか」しっかりと考えて行動することなんです。夢を叶えたいなら、つらいことや、苦しいことにも耐えながら進んでいかなければならないのです。何も努力しない人が結果を気にするのは果たしてどんなものでしょう。確かに一生懸命やったのに、結果がよくなかったというのはよくあることです。実は、その時こそしっかりと考えるんです。例えば、自分の目標の立て方は適切だったろうか。今の自分ではどうにもならないような目標を立てても、空回りするだけです。自分にとって少し高いところに目標を設定し、今の自分でも少し無理すれば継続可能な計画を立てることです。

一生懸命努力して結果がついてくるなら、これに勝るものはありません。たとえ結果がついてこなくても、一生懸命やったそのプロセスは、後で必ず生きてきます。信じられるのは、「今、一生懸命努力している自分」なのです。頑張っていればその先にきっと光が見えてくるはずですよ。これは人生でも同じです。後になって「あのとき・・・しておけばよかった」ではなく、「あのときあれだけがんばったのだから、今の自分があるんだ。」と思える人生を歩めたら素晴らしいことです。人間に問われるのは、「結果」ではなく「自分がどう生きるか」ということなのです。

卒業式の時、同窓会東京支部から会計長の〇〇〇〇さんが参加されました。東京支部との修学旅行での交流活動は2年目となりました。〇〇さんは昨年の修学旅行で2年生の自主研修をサポートして頂き大変お世話になった方です。今回飛行機に乗り、空港からレンタカーを借りて由利中にやってきました。そして、一緒に行動した4人の男子に文庫本までもってきてくれました。これらすべてが自費です。何故、こんなことまでしてくれるのでしょうか。

〇〇さんは中学生の時、病気になり残念ながら自分だけ修学旅行に参加できませんでした。そんな自分が悔しくて、情けなかったそうです。そんな思いがあるから由利中の子どもたちには、修学旅行で最高の思い出を作って欲しいという気持ちでサポートをしてくれました。以前頂いたお手紙には「皆さんと食べたラーメンは涙が出るほど美味しい味でした。」とありました。何故美味しかったのか。それはラーメンそのものの美味しさではなく、由利中の後輩たちと過ごした時間が、〇〇さんにとって、人生の時計の針を巻き戻して得た「かけがえのない時間」だったからだと私は思います。一緒に歩いた卒業生や2年生に会うため、〇〇さんはわざわざ遠い由利中まで来てくれたんだと思います。本当にありがたいことだと思います。特に4人にはその本に込められた〇〇さんの思いや願いをしっかりと受け止めてほしいものです。

〇〇さんは本気で「自分是由利中生のために何かをしたい」そう考えてくれているのだと思います。これが大人の「本気」なんです。〇〇さんだけではありません。皆さんのお父さんやお母さん、家族、同窓会や東京支部、地域の方々、沢山の人が本気でみんなのために汗を流しているのです。ここにいる先生方や職員もそうです。勉強が分かるようになってほしいから「本気」で授業をしています。部活で力を出しくれるよう「本気」で厳しい練習を行うのです。少し道を外れた時には、君たちにまっすぐ育てて欲しいと祈り、「本気」で怒るのです。みんなの周りにいる大人は「なりたい自分」を目指して頑張る前に進んでいけるよう心から願い、「本気」で支えてくれているんです。この大人の「本気」を君たちはしっかりと受け止めなければならない。そして、受け取ったら、みんなも「本気」で頑張れ。「本気」で勉強し、「本気」で部活に取り組み、「本気」で友だちとぶつかろう。「チーム由利中」はいつも「本気」なんです。「本気」でやれば昨日できなかったことが今日できるかもしれない。今日分からなかったことが明日は分かるようになるかもしれない。そう信じて前へと前へ進んでいけばいいのです。それが「夢あきらめない」生き方なのです。

間もなく4月がやってきます。みんなが「進級」という「新しいスタート台」に立ち、「なりたい自分」となるために、いいスタートがきれるよう、明日からの春休みは「本気」で頑張りましょう。私は直接見られないのが残念ですが、是非、由利中生の「本気」を「本気」になって示して下さい。期待しています。